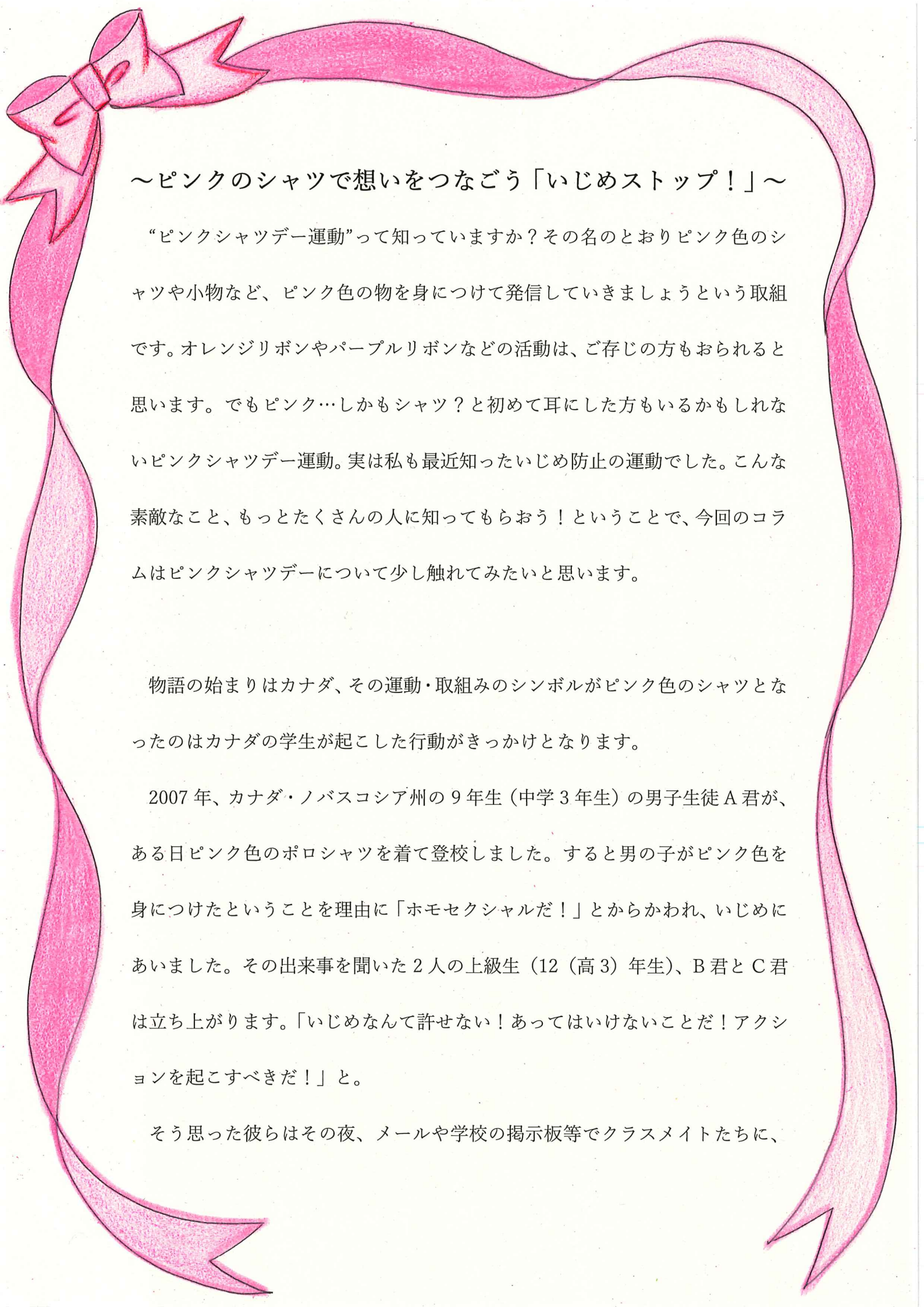




～ピンクのシャツで想いをつなごう「いじめストップ！」～

“ピンクシャツデー運動”って知っていますか？その名のとおりピンク色のシャツや小物など、ピンク色の物を身につけて発信していきましょうという取組です。オレンジリボンやパープルリボンなどの活動は、ご存じの方もおられると思います。でもピンク…しかもシャツ？と初めて耳にした方もいるかもしれないピンクシャツデー運動。実は私も最近知ったいじめ防止の運動でした。こんな素敵なこと、もっとたくさんの人に知ってもらおう！ということで、今回のコラムはピンクシャツデーについて少し触れてみたいと思います。

物語の始まりはカナダ、その運動・取組みのシンボルがピンク色のシャツとなったのはカナダの学生が起こした行動がきっかけとなります。

2007年、カナダ・ノバスコシア州の9年生（中学3年生）の男子生徒A君が、ある日ピンク色のポロシャツを着て登校しました。すると男の子がピンク色を身につけたということを理由に「ホモセクシャルだ！」とからかわれ、いじめにあいました。その出来事を聞いた2人の上級生（12（高3）年生）、B君とC君は立ち上がります。「いじめなんて許せない！あってはいけないことだ！アクションを起こすべきだ！」と。

そう思った彼らはその夜、メールや学校の掲示板等でクラスメイトたちに、

「明日、僕たちもピンクシャツを着て学校へ行こう!」そう呼びかけました。

翌朝、ピンク色のシャツを着た生徒たちが次々と登校して来ました。ピンクシャツを持っていない生徒たちはリストバンドやリボンなどピンク色の小物を身につけ、中には全身にピンク色をまとった生徒も…。B君とC君2人の思いは学校中をピンク色に染めたのです!!その日以来A君はもちろん、学校でいじめを見聞きすることは無くなったそうです。許されないいじめに対し学生自らが行動で意思表示したことで、いじめストップにつながったのです。それ以降、毎年2月の最終水曜日を“ピンクシャツデー”として、カナダではこの日学校や企業、個人を含めた賛同者がピンクシャツを着用し“いじめ反対”のメッセージを発信する日としています。人間は愚かなもので、たった1人の相手を大勢で攻撃しがちです。しかしたくさんの人が結束し相手となった途端に何もしなくなる。

だとすれば、私たちもそんな場面に遭遇した時、勇気をだして声をあげ呼びかけ、正しい行動に移す人間でありたい…そう思いませんか?少しの勇気が大きな力になるのであれば、そのきっかけを作れる自分であるよう、また想いをつないでいける人になろうと、ピンクシャツデーが教えてくれたような気がします。

PN・ミーさん

